

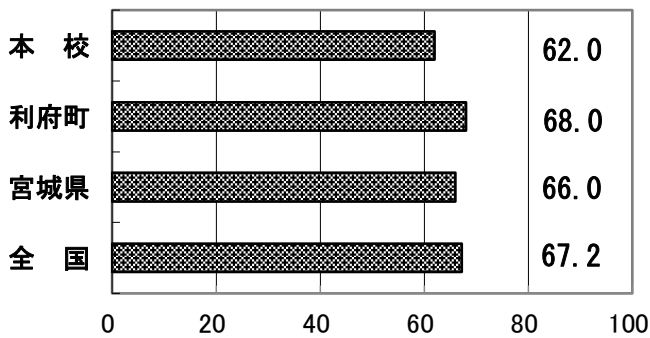
## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果とこれからの取組

4月18日(火)に、全国の公立小学校に通う6年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が行われ、その結果が各校に7月末に届きました。これに基づいて、この度、本校の児童の学習や生活の状況について、よさや課題についてまとめましたので、お知らせいたします。

なお、個人票もあわせてお渡しいたしますのでお読みいただき、お子さまのこれからの学習と生活の改善に役立てていただきますようお願い申し上げます。

### 1 学力調査の結果

【国語】 平均正答率 62%

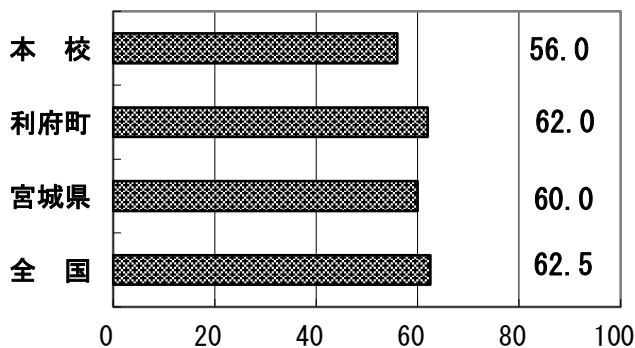


- ・全国の平均正答率を5.2pt下回りました。
- ・評価の観点別に見ると「知識・技能」で6.5pt、「思考力・判断力・表現力等」で4.3pt下回っています。
- ・学習指導要領の内容別に見ると、「知識・技能」に関連する「言語の特徴や使い方に関する事項」で6.4pt、「情報の扱い方に関する事項」で7.1pt下回りました。また、「思考力・判断力・表現力等」に関わる項目のうち、「話すこと・聞くこと」は全国平均と同程度だったものの「書くこと」が4.9pt「読むこと」は6.4pt下回りました。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題として挙げられる点)

- ◎目的や意図に応じて自分の考えをまとめて記述する問題で全国平均を5.7pt上回りました。【問題3の二】
- ◎送り仮名に注意して漢字を正しく使う問題は全国平均を上回りました。【問題1の三(ウ)】
- 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる問題で全国平均を9.1pt下回りました。【問題2の四】
- 情報と情報との関係や、語句と語句との関係の表し方を理解する問題で課題が見られました。【問題1の一、2の三】
- 文の中で漢字を正しく使う問題や、敬語の使い方の問題で課題が見られました。【問題1の三(ア)問題3の三】

【算数】 平均正答率 56%



- ・全国の平均正答率を6.5pt下回りました。
- ・評価の観点別に見ると、「知識・技能」は5.8pt、「思考力・判断力・表現力等」は6.9pt下回っています。
- ・学習指導要領の領域別に見ると、4つの領域全てで全国平均を下回っており、特に「図形」で6.8pt、「データの活用」で8.8pt下回るなど、課題が見られます。
- ・問題形式では、記述式の問題で10.5pt下回っており、数値や式の意味を言葉で説明することに課題が見られます。

具体的な学習状況 (◎ よくできていた点 ● 課題としてあげられる点)

- ◎正方形の意味や性質を理解して名称を答える問題は正答率が高く、全国平均を上回りました。【問題2の(2)】
- ◎一の位が0の2位数のかけ算は正答率が高く、全国平均を上回りました。【問題1の(4)】
- 数量の関係や求め方を式や言葉を用いて記述する問題の無回答率が高く、正答率も低くなっています。全国平均との差も9.5pt, 13.0pt, 13.9ptと大きく開いています。【問題1の(3), 2の(4), 3の(2)】
- 百分率で表された割合についての理解をみる問題で、全国平均を10.4pt下回りました。【問題4の(1)】
- 二次元の表から条件に合う数を読み取る問題の正答率が低く、全国平均を20.9pt下回りました。問題文を読んで聞かれていることを正しく読み取ることに課題があると思われます。【問題4の(4)】

## 2 今後の取組について

### (1) 国語

- 考えをまとめたり記述したりする力を付けるために、授業の中で「読むこと」「話すこと」「書き表すこと」を多く行っていきます。その際、目的や相手意識を明確にして読ませたり自分の知識や体験と結び付けて考えさせたりして指導を進めていきます。
- 複数の情報を関連付けて考える力を育てるために、目的に応じて複数の本や資料を比較・関連付けて考える活動や、内容の大体を大まかに捉えて書き表すような活動を多く行っていきます。
- 複数の同音異義語を比較するなどしながら漢字の持つ意味を考えさせ、文章の中で正しく使うことができるように日常的に指導していきます。

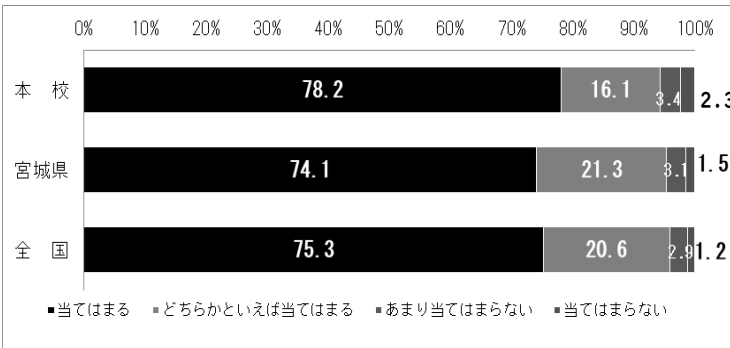
### (2) 算数

- 授業では問題の答えを求めるだけでなく、なぜそう考えたのかを式や図、言葉を用いて説明し合う場を多く設定し、筋道を立てて考える力や、相互に聞き合い学び合う力を高めていきます。
- 文章題で問われていることを正しく読み取ったり、数量の関係性や図形の特徴を正しく捉えたりすることができるように、問題場面の意味理解、算数的用語の理解と定着、図や表の捉え方などを、授業の各場面で丁寧に扱っていくようにします。
- 日々の授業での確実な問題演習や朝のスキルタイム活用した計算練習、家庭学習などとおして、計算力の向上と基礎基本の理解・定着を図ります。その際、「課題への取組・答え合わせ・間違い直し」までを一連の流れとして自分の力で取り組ませ、教師がその活動を支援していくことにより、児童自身が自己の学習を調整しながら自律的に学ぶ力（→学びを自己調整する力）を育てていきます。

## 3 学習状況調査の結果

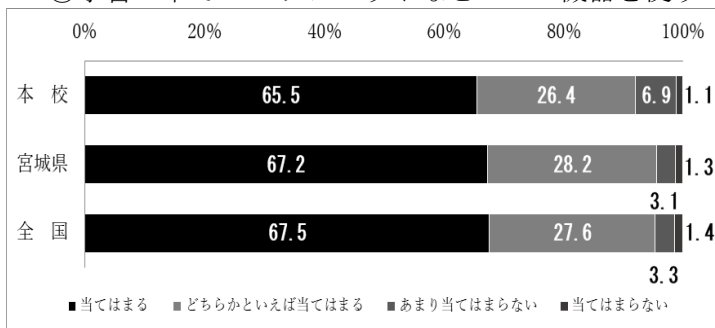
### (1) よい傾向が見られる項目

①人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童が78.2%、「どちらかといえば当てはまる」も含めると95%近い児童が肯定的な回答をしています。また、「人が困っているときは進んで助けていますか」の設問に肯定的に答えた児童も95%を超えています。優しい気持ちで人と関わろうとする利府小児童の姿がうかがえます。今後も児童の自己有用感を高め、将来への夢や希望を育てていきたいです。

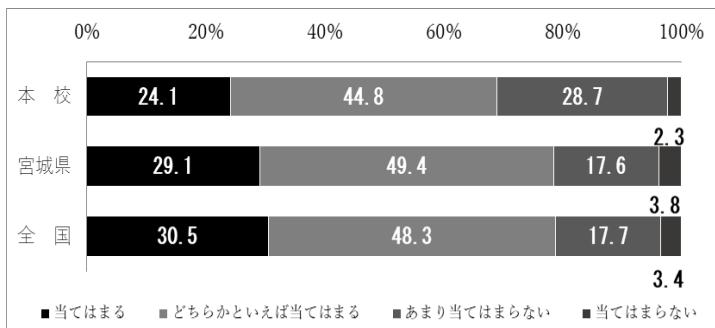
②学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。



ICT機器を学習に活用することの有用性を9割以上の児童が実感しています。数値的には全国と同程度ですが、授業等でICT機器をどの程度使用したかという設問の数値は県や全国の平均値を大きく上回っています。調べ学習だけでなく、思考を深める場面や意見を共有・交流する場面など様々な学習場面で、ねらいを明確にした活用を進め、確かな学びの力につないでいきます。

### (2) 改善が必要と思われる項目

①5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



肯定的に捉えた児童の割合が、全国より10%ほど下回っています。類似する質問項目でも全体的に低い傾向が見られ、主体的に考えることや意見をまとめること、人に伝えることへの苦手意識と経験不足がうかがえます。今後、各教科の授業において、自分の考えをまとめる活動や、互いに伝え合い学び合う活動を多く取り入れていきます。